

第2回専門職大学基本構想策定委員会の開催結果について

1 日 時 令和元年7月8日(月) 13:00~15:00

2 委員会出席者

○会長 生源寺眞一(福島大学食農学類長)

○委員

今井敏((独)農林漁業信用基金理事長)、牛尾陽子((公財)東北活性化研究センターフェロー)、嶋村和恵(早稲田大学商学学術院教授)、野堀嘉裕(山形大学名誉教授)、五十嵐一雄(山形県認定農業者協議会会長)、伊藤倫子(米沢牛いとう牧場(株))、阿部多喜子(金山町森林組合森林施業プランナー)、遠田勝久((有)遠田林産代表取締役)、佐藤睦浩(新庄神室産業高等学校校長)今田裕幸(山形県農業協同組合中央会常務理事)、阿部清((公財)やまがた農業支援センター専務理事)

3 会議の概要

事務局から「専門職大学の教育内容・教育体制」について資料により説明の上、意見交換を行った。

【主な意見】

1 養成すべき人材像と教育内容のあり方について

○実習について

- ・農林大学校よりも実践的な能力が低下することがないように、十分な実習時間を確保するようにすべき。
- ・企業内実習の時間が長いので、カリキュラムの組み立て、授業スケジュールを早い段階から考え、授業と実習がうまく両立できるようにする必要がある。
- ・企業内実習先はとても重要。実習先次第で就農するか否かに影響する。
- ・同じ実習先に継続して行くことで、実習先の経営者の技術力だけでなく人間力も学び取るようにすべき。また、大学から実習先を提供するのではなく、自分で実習先を選ぶなど、実習が単に技術の研修を越えた場になるようにするのも良い。
- ・実習先はとても大切。学生が実習先の情報を収集するのは難しいので、大学が情報提供を行って、その上で自分でアポイントを取るとかするのが良いのでは。
- ・実習先について学生には情報が無い。大学側で、学生の個性を發揮できる県内全域の企業内実習の場を提供すべき。大学側が、学生がどのような面で力を發揮するのか見抜くことも大事。

○カリキュラムについて

- ・経営については、例えば、畜産であれば、地元の飼料の単価はいくらくらいというリアルな単価を用いて、それをベースにした変動費、固定費を計算し経営を立てるとこれくらいの利益が上がっていくというリアルな数字がイメージできる授業を取り入れて欲しい。

- ・ありとあらゆる物を教える形になっているが、学生は実践をしたい人が多いと思う。財務分析や会計よりは安全衛生等を重点的に教えて欲しい。また、これだけの授業を4年間でやるとすると、途中で辞める人が出ないように、カリキュラムの順番組みが大事になる。
- ・財務分析とかは基本の部分だけで十分だと思う。
- ・財務管理、労務管理については、理論と実践の架橋という抽象的な話だが、分野によっては橋をかけていくやり方はいろいろある。
- ・資格がどこの科目に配分されるのか精査した方が良い。資格を取るために授業内容はかなりしぼられるので、中途半端にならないよう注意してほしい。
- ・専門職大学はテーマを持って学ぶことが重要。卒業論文というよりは、学ぶテーマが複数あり、自分で学ぶテーマを整理し、研究するような学びがあってもいいのではないか。

○専門職大学の特色について

- ・山形大学農学部と実習林や農場を共有することを考えてはどうか。農林業は4地域毎に特色があるので、うまく活用することが特徴になる。
- ・県内4地域に分散した特色があると思う。是非置賜にも学生と学べる場が欲しい。
- ・山形の専門職大学には、他の大学にない特色を作るのが大事。英語力でも、資格や免許がたくさん取れるのでも、全寮制で人間力が磨かれるのでも良い。県内からだけでなく県外からの応募が期待できるような大学にしていくべきと思う。
- ・現在の農林大学校の2年間に2年間追加するイメージではないか。今の農林大学校はいろんな分野を入れて若干内容が詰め込みすぎになっている。農林大学校では農産物、畜産物のワンサイクルしか経験できない。これを4年に広げれば経験値が上がり、実践力の強い学生が期待できると思う。
- ・農林業を担う職業人の育成なので、実践力、課題解決能力を磨くことに尽きる。これまでに無いような専門職大学を作れば、10年、20年後には大学に入学することが農業人のステータスになる。
- ・専門職大学は頭でっかちではなく、実践力のある人間を教育するということが大事。
- ・農業の超エリートを育てるのであれば、ほ場を任せてノルマを課し、失敗した時に、失敗をベースにして次の展開を考える。そういうことができる体制が必要ではないか。
- ・専門職大学がターゲットとする学生はどういう人材なのか。求める人材像を絞り込んでいく必要がある。
- ・専門職大学は、地元で優れた人材に残ってもらうということを大事にして欲しい。

○高校との連携について

- ・高校と十分連携できる体制にして頂きたい。
- ・学生が減っている中で、大学間で学生の取り合いになる。そうすると積極的に高校に打って出ることが大事。積極的に連携して、農業高校を専門職大学の前期課程のようにして高校3年間と密着した専門教育ができれば、全国初となる。林業に関しては高校に学科が無いので作ることも考えてはどうか。県内には研究機関が散らばっており、山形大学農学部、工学部もある。立地の良さを活かすと県内を1つのキャンパスとして、専門職大学が中核になっていく可能性があるのではないか。
- ・林業についてもいきなり大学ではなく高校でも教えて欲しい。高校への林業学科の

設置を期待したい。学科は難しくても4地域独特の林業があるので高校から学ぶことを進めて欲しい。

2. 教育体制のあり方について

○教育の支援体制について

- ・地元の協力については、設置場所周辺だけではなく、県下全域から実習の場を提供してくれるところを募集するとか、専門職大学の設置を契機に、卒業後に初期の負担が少なく新規就農できるプログラムを県とJA等と一緒に考えてはどうか。農業界が前向きに変わるよう、県全体として支援体制を検討したら良いのではないか。
- ・専門職大学を作るなら地元の支援・協力が絶対条件。金だけではなく、人・物・情報の協力体制が成功のカギ。

○教員について

- ・他の大学とクロスアポイントメント※を活用すれば教員の確保をうまくできるのではないか。※研究者等が大学、公的研究機関、企業の中で、二つ以上の機関に雇用されつつ、一定の条件下で、それぞれの機関における役割に応じて研究・開発及び教育に従事することを可能にする制度
- ・大学は博士課程を持っていると、博士を養成することで教員間で競争する構造になっている。大学院を設置するかどうかで教員の構成、あり方も変わってくると思う。(大学院の設置について、)今のうちに決める必要はないが、結構大きな負担になる。それで、教員が集まるのかという問題もある。次の段階で教員の資格とどういう教員を集めるのかというのは本気で考えなくてはならない。
- ・作って売ったことがあるような実践的な教員を数多く配置して欲しい。
- ・専門職大学と併設して農林大学校又は短期大学があるとすると、3年次編入を行うのかも大きな問題になる。カリキュラムの組み方によっては、農林大学校の2年間で専門職大学の2, 3年次に行くことをほとんどやってしまうことになり、編入した3年次にすることがなくなりかねない。本来1年次にやるような科目を3年次に持っていき、農林大学校と専門職大学で1, 2年次を併用して同じ授業とすることも考えられないのか。教員の負担も減らせる。そういうところも専門職大学の特徴として言えるのかもしれない。

○研修、フォローアップについて

- ・農林業者の経営のステージに応じた研修教育の場になるよう工夫をすることも持ち味になる。
- ・専門職大学を卒業して、就農してからもフォローアップできるようなシステムを作り、心配しないで就農できることをアピールできるとよいのでは。

○定員について

- ・専門職大学と農林大学を併せて定員を検討するということだが、数ではなく質にこだわり、学ぶ意欲の高い学生を確保して欲しい。県内だけではなく県外も含めてどのくらい確保できそうなのかよく分析して定員設定すればいいのではないか。
- ・静岡県の専門職大学の状況を聞いてほしい。静岡は神奈川県など隣県に人口の多い県があるので、隣県から人を連れてくるという見込みもあるのではないか。宮城県の人にとっても山形の専門職大学は魅力があるかも知れない。

- ・定員が25名しかいない場合、教員がそれと同じ程度というのにはあり得ない。学生数が増ければ教員数は多くなるが、定員が25名の場合の適正な専任教員数は5人から8人程度。それではなかなか教育も難しいので、もっと人数を増やせばよい。そのためには、農林大学校と融合するようなやり方で生徒数を確保することも考えられる。
- ・25名は人数としては少ないとは思いますが、仕方がない現実もあるのかと思う。県外から集めることも考えた方がよい。
- ・子供の数も少なくなるのは目に見えている。農林大学校では生徒集めに苦労しているようだが、林業を家業としていない学生も多い。いろんな流れで生徒を増やしていければよい。
- ・高速道路が新庄から秋田までつながる。秋田の国際教養大学はグローバルに独特な人材を育てている。そこと連携することは生き残っていくために大きな戦略。ただ、農林大学校の前にはICが無いので、ぜひICを作ってもらえれば当地が農業のフロンティアになれるのではないかと。周辺環境をどうするか、国にも働きかけなければならない。ここの地域の高校生だけで25人を賄うのは無理である。
- ・私の経験からするとなんとなく定数は20～25名かと思う。

○設置場所について

- ・専門職大学と農林大学校の入学者をそれぞれ確保するのは現実的に考えて難しい。そうすると場所は新庄かということになるかと思う。
- ・設置場所は農林大学校の場所を活用して欲しい。インフラの整備も期待。

○試験研究機関について

- ・試験研究機関との連携もしっかり取っていくべき。
- ・専門職大学と既存の試験研究機関を連携させることは学生にとっても魅力になる。課題解決にあたっては研究機関との連携が必要不可欠。4か所の産地研究室、試験研究機関の良さを活かせるように。既存の組織を十分に生かして進めることが良い専門職大学に繋がる。

以上